

地域交流拠点化促進に向けたシンボルツリー活用検討及び実施計画策定業務 委託仕様書

- ・この仕様書は企画提案書作成用である。
- ・企画提案募集後、嵐山町は優先交渉権者として選定された者と協議を行い、協議が整った場合は当該協議を踏まえ仕様書を修正のうえで契約を締結する。

1. 業務名称

地域交流拠点化促進に向けたシンボルツリー活用検討及び実施計画策定業務

2. 業務の背景と目的

当町では、市街化区域内に小中学校を集約し、町唯一となる統合学校の整備を進めている。新校舎は現在の市街化区域内にある小中学校と同一敷地内に建設し、図書室、特別教室、武道場等の一般開放を行うことで、地域の交流拠点を目指している。また、同敷地内には学童保育施設や防災倉庫等を併設し、平時・非常時間問わず町の中心となる施設とする計画である。

しかし、単なる施設(ハコモノ)の整備だけでは真の地域交流拠点にはなり得ない。特に、離れた地域に居住する町民にとっては、新校を「自分たちの地域の交流拠点」として意識しづらいという課題がある。

本業務は、学校統合に伴い伐採を余儀なくされた「シンボルツリー」を地域共通の財産(メディア)として見立て、これを活用した多様なソフト事業を民間から公募・実施するための「内容検討」及び「実施計画の策定」を行うことを目的とする。

3. 履行期間

契約確定日から令和9年3月31日まで

4. 業務内容

受託者は、監督員と緊密に連携を取りながら、以下の業務を行うものとする。

(1) 基礎情報の整理と課題分析

- ・伐採されるシンボルツリーの特性(樹種、サイズ、状態、由来、町民の思い入れ等)の調査・把握
- ・町民の意識や、地域交流に対する期待・課題の整理
- ・先進自治体における「学校の地域開放・拠点化」及び「記念樹等の木材活用ソフト事業」の事例調査

(2) シンボルツリーを活用したソフト事業の企画・検討

- ・民間事業者や市民団体等から広くアイデアや提案等を呼び込むための公募スキーム(プロポーザルやコンテスト等)の設計
- ・提案の核となるテーマや、期待する事業内容(例：木工ワークショップ、記念品の共同製作、アートプロジェクト、町内全域をつなぐ巡回イベント等)のメニュー化
- ・平時(コミュニティ形成、児童交流)及び非常時(防災拠点としての活用)の双方に資する仕掛けの検討

(3) 実施計画の策定

- 次年度以降に展開するソフト事業の全体スケジュール及びロードマップの作成
- 各事業の実施体制(町、民間事業者、学校、地域住民等の役割分担)の構築
- 事業継続のための概算予算、維持管理手法、効果測定指標(KPI)の設定

(4) 住民・関係者巻き込み(合意形成)の支援

- 町民や学校関係者等が「地域の交流拠点」として当事者意識を持てるような、ワークショップや意見交換会等の企画・運営(最低 1 回実施)
- シンボルツリー活用を通じたストーリー性のある広報・情報発信(Web、広報誌等)の企画案作成

5. 成果品

- (1) 業務実施報告書(基礎調査、ワークショップ結果等含む) 正 1 部、副 1 部
- (2) 地域交流拠点化促進に向けたシンボルツリー活用実施計画書 正 1 部、副 1 部
- (3) 上記データの電子媒体(DVD-R 等) 1 式

6. 提案にあたっての留意事項(プロポーザル等の着眼点)

- (1) 単に木材を加工して終わりではなく、多くの町民が新校に足を運ぶ、あるいは新校の存在を身近に感じるための「仕組み(仕掛け)」が盛り込まれていること。
- (2) シンボルツリーの大きさが後世にも伝わる工夫を提案に盛り込むこと。
- (3) 民間の資金、ノウハウ、人的リソースを最大限に引き出せる柔軟な発注・公募仕様の提案を行うこと。

7. その他

本事業は 3 か年事業です。今年度は 1 年目になります。